

## 21 項と付加詞の違い

項 (**argument**) とは、動詞や形容詞などの述語が意味上要求する要素を指す。ある述語の項のうち、述語の目的語として生じるものを内項 (**internal argument**) といい、主語として生じるもの外項 (**external argument**) という。一方、述語にとって不可欠でない要素を付加詞 (**adjunct**) という。例えば、文 (1) の各要素は、以下の関係にある。

- (1) John hit Mary yesterday.

外項 述語 内項 付加詞

述語 hit は、その語彙特性により目的語と主語を要求し、目的語の Mary と主語の John はそれぞれ述語 hit の内項と外項に該当する。一方、修飾語の yesterday は述語 hit が要求するものではなく、付加詞に該当する。

以下では、項と付加詞の違いをいくつか提示する。第 1 に、項は述語に必要とされる数だけ過不足なく生起しなければならないが、付加詞にそのような制約は課せられていない。例えば、2 つの項を要求する動詞 hit を伴う文の場合、項を過不足なく含む文 (2a) は文法的だが、項が不足する文 (2b) や過剰な文 (2c) は非文法的である。

- (2) a. John hit Mary.  
b. \*John hit.  
c. \*John hit Mary Kate.

これに対し、付加詞は随意的に、かつ、いくらでも現れることができる。したがって、付加詞が随意的に現れる文 (3a) と付加詞が複数個現れる文 (3b) は文法的である。

- (3) a. John hit Mary (yesterday).  
b. John hit Mary with a stick in this room yesterday.

第 2 に、項の併合は統語構造の種類を変化させるが、付加詞の併合は統語構造の種類を変化させない。これは特定の種類の統語構造にのみ適用される現象を用いて明らかになる。例えば、do so 代用は動詞のみに適用することができないが ((4a) 参照)、動詞とその内項の組み合わせには適用できる ((4b) 参照)。

- (4) a. \*John ate an apple, while Bill did so (=ate an orange).  
b. John ate an apple, and Bill did so (=ate an apple), too.

これは、動詞が内項と組み合わさることで do so 代用の対象となる種類の統語構造に変化することを示唆している。これに対し、付加詞の有無は do so 代用の可否に

影響を与えない。

- (5) a. John ate an apple yesterday, while Bill *did so* (=ate an apple) today.

- b. John ate an apple yesterday, and Bill *did so* (=ate an apple yesterday), too.

これは、付加詞を含む構造と含まない構造がどちらも do so 代用を適用できる種類の統語構造であることを示しており、付加詞の併合によって統語構造の種類が変化しないことを示唆している。

第3に、項と付加詞は島の中から抜き出した際の文法性に差があると主張されている。まず、(6) は項と付加詞に移動を適用した島を伴わない文であり、等しく文法的である。

- (6) a. [Which book]<sub>i</sub> do you think that John read  $t_i$  yesterday?

- b. Why<sub>i</sub> do you think that John read the book  $t_i$  yesterday?

(Ackema 2015: 267)

これに対し、項と付加詞の移動が島を超えて適用された場合、項の移動を伴う文 (7a) の方が付加詞の移動を伴う文 (7b) よりも文法性が高いことが観察されている。

- (7) a. ??[Which book]<sub>i</sub> do you wonder whether John read  $t_i$  yesterday?

- b. \*Why<sub>i</sub> do you wonder whether John read the book  $t_i$  yesterday? (ibid.)

第4に、項と付加詞の間には再構築に関して違いが見られる。(8a) は移動要素が項の that 節を含む文であり、(8b) は移動要素が付加詞の that 節を含む文である。なお、各 that 節は主節主語の代名詞と同一指示の指示表現を含んでいる。

- (8) a. \*[Which claim that Mary had offended John]<sub>i</sub> did he<sub>i</sub> repeat  $t_j$ ?

- b. [Which claim that offended John]<sub>i</sub> did he<sub>i</sub> repeat  $t_j$ ?

(8) の対比は、移動要素に含まれる項が移動の元位置に義務的に再構築されて束縛条件C違反を引き起こすのに対し、付加詞は移動の元位置に再構築される必要がなく束縛条件C違反を回避できることを示唆している。

このように、項と付加詞の間には様々な違いが存在し、両者を区別することができる。しかし、上記のいくつかの違いに基づく区別には問題があるという主張もある。この議論については Ackema (2015) を参照。

(齋藤 章吾)